

## シリーズ3，富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン⑩

職藝学院

教授 渡邊 美保子

## ヘスペリス・マトロナリス

ヘスペリス・マトロナリスは、アブラナ科の寒さに強い宿根草です。5月になると、原産地のヨーロッパでは、道沿いや、林を縁取るように咲き乱れます。日本では、5月に開花した後に夏の暑さで枯れてしまうことがあるため、一年草として扱われていますが、富山では、植えてから数年間は花壇で楽しむことができます。一年草のムラサキハナナ（シヨカッサイ）によく似た花を咲かせます。

ヘスペリスは4枚の花弁を持ち、小花がたくさん集まって群れるように咲きます。花茎はよく枝分かかれして、その先に花を咲かせるためです。花の咲き方は菜の花によく似ていますが、花の色は、白、淡い紫色から濃い紫色まであります。花には、甘い匂いがあります。夕方になるとその香は一層強くなり、まったりと、まとわりつくような香りになります。ヘスペリスの草丈は70～90cmで、花壇の後方に植栽するとよく目立ちます。5月に咲く宿根草で、草丈の高い種類は少ないためとても重宝します(写真1)。



写真1：ヘスペリス・マトロナリス  
草丈70～90cm 5月中旬

植栽する場所は、日当たりが良く、有機質に富んだ水はけのよい花壇をおすすめします。何年も咲かせたい人は、秋に2年ほど熟成させた牛糞堆肥を、株のまわりの土の上に10cmほどの厚みでかぶせるとよいでしょう。富山では寿命の短い宿根草ですが、この作業をすると、少し寿命が延びるようです。ヨーロッパでは野草なので、こぼれ種で増えてしまうのですが、富山ではこぼれ種でどんどん増えるということはないようです。一株のヘスペリスから大量の種がとれます。消えたときに備えて春に種をまいて苗を仕立てておき、秋に植えると翌年の春までにしっかりとした株に育

ちます。花壇に植栽する時は、色が少しずつ違う紫色系統の花色を組みあわせるときれいです(写真2)。



写真2：ヘスペリスの紫色系統の花色

組み合わせは、黄色や赤黒く光沢のある葉を持つものを隣合わせにするとお互いに引きたちます。低木では、黄色の葉をもつシモツケの矮性品種ゴールドフレーム、宿根草では、銅葉のガウラの矮性品種や紅紫色の小花が空中を浮いているように咲くベニカノコソウ、また、一年草では、レースのような白い花を咲かせるオルレア、やわらかな印象の赤色のアイスランドポピーなどをおすすめします(写真3)。



写真3：ヘスペリス（花壇後方）とシモツケ、ガウラ、  
レッドバレリアン、オルレア、ポピー等の組合せ  
（富山県総合運動公園。5月中旬）

宿根草の庭をデザインする際、命の短い宿根草とゆっくり成長する寿命の長い宿根草を隣同士に植えることがあります。例えば、成長がゆっくりで3年ほどかけて本来の大きさになるような宿根草の隣に、成長が早く数年で消えてゆく宿根草を組み合わせます。この手法は、植えられた植物にとってお互いの成長を妨げないような無理のない組み合わせになります。のんびりと成長して大きくなってゆく宿根草の隣に植えるには、ヘスペリスは、まさに最適な宿根草です。